# 福岡・雨窪（あまくぼ）遺跡群

**1** 所在地　福岡県京都郡苅田町大字雨窪ほか

**2** 調査期間　二〇〇一年（平13）九月～二〇〇二年三月

**3** 発掘機関　福岡県教育庁文化財保護課

**4** 調査担当者　飛野博文

**5** 遺跡の種類　祭祀遺跡・流路跡

**6** 遺跡の年代　旧石器時代～平安時代

**7** 遺跡及び木簡出土遺構の概要

雨窪遺跡群は福岡県東北部、東は周防灘に面し、西に貫山系が迫る狭隘な地に位置する。周辺部には天観寺山窯跡群をはじめとする古代の須恵器窯跡が散在し、藤原広嗣の乱に際して築城されたと伝えられる松山城が岬状に突き出した山塊に乗る。また、『延喜式』に「刈田駅」が見え、調査対象地の南に「苅田」の地名を残すことなどから、関連する遺構の発見が期待された。

（行　橋）

発掘調査は東九州自動車道苅田インターチェンジ建設を契機とし、六万㎡近い面積を対象としたが、台地上はすでに大きく削平を受けたようで顕著な遺構が残らず、遺物を多く包含する谷部の約三〇〇〇㎡を主たる対象とした。調査の結果、幅一二～一六m深さ〇・二～〇・三mの流路と、その南肩に隣接する二基の土坑を検出した。主として流路の埋土中から万年通宝、緑釉小壺、陶馬片や多くの土師器・須恵器、石器、木製品や自然遺物が出土した。特に、土坑に近い部分の流路中で陶馬や土器が良好な状態で多く出土し、また、一部が炭化した木製品や自然遺物、桃の種子などが集中する傾向があり、祭祀の場を想定している。なお、他に「乙□」の墨書土器や、蓋杯の内外面に墨が付着した転用硯（？）が多く出土した。

**8** 木簡の釈文・内容

(1)　□□□□　　(52)×(19)×7　081

整理の過程で発見したもので、出土地点は特定できない。上下両端及び右端を欠き、裏面は腐食が進む。三文字目の旁はふるとりの可能性があり、「進」の可能性がある。釈読にあたっては、九州歴史資料館の酒井芳司氏のご教示を得た。

**9** 関係文献

福岡県教育委員会「雨窪遺跡群」（『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告』一、二〇〇四年）

（飛野博文）